

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3271600524		
法人名	株式会社 ピュアライフ島根		
事業所名	グループホーム 暖談		
所在地	島根県出雲市大社町遥堀666 (電話) 0853-53-5303		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月11日	評価確定日	平成21年9月23日

【情報提供票より】(21年8月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤15人, 非常勤1人, 常勤換算12, 1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(8月25日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	3名	要介護2	7名
要介護3	1名	要介護4	3名
要介護5	4名	要支援2	0名
年齢	平均 84, 8歳	最低 76歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上野医院 藤江歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者も職員も共に笑顔で暮らせるホームを目指し、礼拝や喫煙など、利用者の習慣や希望を大切にされた支援を行っているホームである。新たな取り組みとして、一人ひとりの職員が、「私の両親を入所させたいグループホームは」「私の入りたいグループホームは」を考え、目標を持ってケアに取り組み始めている。1ユニット増設されたが、これまでの認知症ケアの実績を活かし職員全員が話し合いを重ねながら日々奮闘している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	課題の「同業者との交流」は、広報誌を届けたことがきっかけとなり交流が始まり、「備蓄」も検討され改善されている。「介護計画の見直し」は継続課題になっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を話し合い職員全員で取り組んだ。課題を共有し改善に取り組むまでには至っていないが、一人ひとりの職員が自分達の目指すホームを作るために、目標を持って改善への努力が始まっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの状況や行事などを報告し、市町村担当者から意見や情報ももらっている。夜間外出された利用者があり、施設時間や身体拘束などについて意見交換を行った。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を置いたり、家族の訪問時や手紙などで意見を聞くように努めている。利用者に対しての要望はケアに活かしている。
重点項目④	広報誌の配布や祭りなどの地域行事への参加、子ども会との交流、ホーム行事を通しての交流など、地域との連携が広がっている。地元の理髪店やお店に出かけたり、近所の人からの野菜の差し入れもある。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑」を基本としたケアを心がけ、地域に開かれたホームになることを目指した独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、会議などを通し、理念に基づいたケアを行うよう話し合っている。運営者から理念について話を聞く機会もある。	○	運営規定に禁止事項や「日課の励行」という一部実態にそぐわない表現がみられるので検討をしていただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りなどの地域行事に参加したり、子ども会との交流、広報誌の配布、ホーム行事などを通し交流をしている。地元の理髪店やお店に行くことが多くなった。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を話し合い、職員全員で取り組んだ。全職員で課題を改善するまでには至らないが、目標を持ってケアを行う取り組みが始まり、ケア内容に変化が出ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況や行事などを報告し出席者と意見交換をしている。夜間外出の事例を報告し、出席者から意見を聞いている。開催日を変更したため、家族や地域の人への参加が少ない。	○	開催日や出席者の工夫をし、さらに意義ある会議になることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者とは日常的に相談ごとをしたり助言をもらうなどの関係が築かれていて、共にサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や、毎月発行する暖談新聞や手紙で状況を伝えている。	○	家族への報告に努められているが、家族が知りたいことは何かを聞き出し、報告内容に反映されることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の訪問時や手紙で意見を聞くことに努めている。家族からはあまり意見など聞かれない。	○	家族同士の交流の場を増やしたり、運営推進会議に多数の家族が出席できるような工夫を望みたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット、デイサービスの3部署での異動を実施しているが、日常的に交流し利用者や馴染みの関係を築き利用者への影響がないようにしている。新人職員には主任が指導している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員全員が研修を受けられるように配慮している。運営者の支援もあり今年度から研修に参加しやすい体制が作られた。	○	テーマを決めての内部研修が始まっているので、継続した取り組みになることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員はグループホーム連絡協議会の勉強会に参加している。他の事業所に広報誌を届けたことがきっかけで行事を通じて交流が始まっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族だけでなく利用者にも見学に来てもらうよう働きかけている。デイサービスを利用し何度もお茶を飲みに来てもらい雰囲気に馴染んでもらってからサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者のこれまでの生き方を思い尊敬の念を抱いて接している。一緒に行動する中で作法や洗濯物のたたみ方などを教わっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者の希望を聞いたり、日々の生活の中で表情や言動から思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が中心になりフェースシートを参考に利用者や家族の希望を反映させた計画を立て、管理者がまとめている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に変化のある時は随時見直しを行っているが、基本的には3ヶ月に1回の見直しとなっている。	○	きめ細やかな支援を行うために、状態の変化のない時も1ヶ月に1回、職員全員で見直しをしていただきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり日々利用者の健康管理を行っている。受診や外出など、利用者や家族の希望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に受診している。往診が必要になった場合も、利用者、家族の納得した医師による支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や医師、関係者などと連携し、看取りの事例がある。看取りの確認書を作成し、家族からその時々意向を聞いている。職員は看取りを通し多くのことを学び、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入浴時や排泄時の対応について、気づいたことは話し合い改善に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や過ごし方、喫煙など、利用者のペースや希望を尊重したケアを心がけている。朝の掃除を職員側の都合で行うのではなく、利用者と一緒にすることで改善に結び付けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、食器洗いなど、利用者の力が発揮できる場面づくりを行い、車椅子の人も職員と一緒にしている。昼はデイサービスからの配食だが、月に一度は独自のメニューで作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った支援を行い、毎日でも夜間でも入浴することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付けや洗濯物干し、献立書きなど、役割を持って生活できるよう利用者の力を活かしている。趣味の歌や塗り絵を楽しむなど、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの理髪店に出かけたり、野菜の収穫、買い物、本屋、図書館などに出かけている。中でばかり過ごさないよう毎月計画を立て出かけている。	○	さらに、利用者のそれまでの生活歴を把握し、一人ひとりにあった外出支援に力を入れていただきたい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組み利用者の自由な生活を支援している。夜間外出された利用者があり運営推進会議で話し合いを行った。	○	これを機会に地域での見守りやネットワーク作りについて話し合いを行われることを望む。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的に避難訓練を行い、地域との相互協力も話し合っている。部屋のはき出しにスロープをつけることが計画されている。備蓄もある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握し、時間ごとに水分補給の声かけを行い摂取量に気を配っている。バランスのいい食事内容になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や観葉植物を飾りゆったりとした雰囲気づくりをしている。新しいユニットはトイレの肘掛けや浴槽の深さが配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箆笥や水屋、お茶道具などを持ち込んだり、写真や新聞などを置くなど、利用者に合わせた居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。